

国土交通省、水資源機構との会議 要旨報告

2006年3月15日

日本一のアユを取り戻す会

1. 会議議題：利根大堰および江戸川水閘門におけるアユに優しい施設運用について
2. 日時、場所
2006年3月14日 13:30～14:40
国土交通省関東地方整備局河川環境課 会議室
3. 出席者
 - (1) 国土交通省関東地方整備局
河川部河川環境課 徳道課長補佐、他2名
 - (2) 水資源機構
管理事業部施設課 井爪課長、大川課長補佐、利根導水総合管理所 野田副所長 高橋主幹
 - (3) 利根川江戸川流域ネットワーク
新保國弘(副代表)、田中利勝(前代表)
 - (4) 日本一のアユを取り戻す会
野村完一(副会長)、福田睦夫(事務局)

要望事項における主な質疑内容は次のとおりでした。

【利根大堰関係】

(R1) 中央部のゲートを下げて稚アユの遡上を効果的にする。

昨年秋の試験運用では、機械工学的な問題は特に見られなかった。

日平均20回、日最大67回の細かなゲート操作が行なわれた。マニュアル操作であり、マンパワーが必要となる。

ゲートの細かい操作は費用を要するため、水のユーザーの理解が必要となる。

今回の時期(アユの訴状期)は農業用水の使用時期と重なる。

2号、3号魚道から集中的にアユが遡上すると観察窓(1号魚道)から魚が見えにくくなる。たくさんの子供が見学に来るので問題もある。

以上のような問題等がたくさんあるが、アユ等の遡上についてどんなことが出来るか検討し回答したい。

(R2) アユの遡上調査の継続をお願いしたい。

予算の問題があり対前年マイナスと厳しい状態にある。

群馬県で調査が行なえないか？

CCDカメラを用いた調査を試みているが、魚種の特定等の問題が多い。良いアイデアがあれば提案して欲しい。

検討して、回答したい。

【江戸川水閘門関係】

(R3) アユの遡上障害となっている水門または閘門を遡上できるよう操作してほしい。

要望事項について、河川管理者の立場から出来ることと出来ないことがあるので承知願いたい。

水閘門の主な役割は、海水の浸入防止や取水である。昭和 18 年に竣工している。

閘門は船が通過する度に開閉している。平成 13 年から 17 年における操作実績(配布資料 4 月 5 月)では一日に 10 回程度開閉している。夜間(18:00 以降)は操作停止である。閘門下流は水の流れがないので、開閉してもアユの遡上は見込めないと思われる。

開閉の 1 サイクルは約 15~20 分の時間を要する。

閘門は船の通過を目的としており、ゲートは全開・全閉の操作しか構造上できない。

施設の全体改修の話は、江戸川河川整備計画の中で位置付けられれば行う事となるが、財政事情もあり簡単ではない。施設が老朽化しているのは事実である。

条例違反である稚アユ釣りの規制は国交省では難しい。漁業関係者への働きかけが有利ではないか。

国交省では“魚が上る行為に対するアシスト”はできる。

アユの最大遊泳速度(突進速度)は体長の約 20 倍であるので、10cm の稚アユを対象とすれば、流速 2m/s 程度の条件であれば遡上できることになる。

閘門の利用は困難であるので、左岸側の水門を稚アユが通過できる方策を検討し、結果を回答したい。

(R4) アユの遡上前線(国交省ホームページ)に江戸川を掲載してほしい。

遡上を具体的に確認できている施設が HP で公表されていると思われる。

本省と協議し回答したい。

【その他】(日本一のアユを取り戻す会より)

(1) 今年も県民アユ釣り大会が行なわれる見込みである。国交省・水機構の皆様を招待したい。

(An) 是非参加したい。

(2) 利根大堰における今年のアユの遡上調査時に参加する考えがある。

(An) 是非参加して下さい。

(3) 群馬県の利根川へ遡上するアユは江戸川からのアユが主体で江戸川は極めて重要な位置付けにあります。

(添付資料：要望書、利根大堰改良イメージ図、江戸川水閘門改良イメージ図)

(文書作成：福田睦夫)

国土交通省大臣 北側一雄 様
独立行政法人 水資源機構理事長 青山俊樹 様

要 望 書

2006年3月14日
日本一のアユを取り戻す会
会長 大塚 克巳

1. はじめに

昨年の秋には利根大堰において、流下仔アユに優しい水門の運用を早急に実施していただきありがとうございました。アユへの効果はまだ確認できませんが、サケの遡上が増加し、目的外ですが水門の運用効果が現れたと考えています。

2. 利根大堰に関する要望

1) 水門の運用について

稚アユの遡上やサケ稚魚の降下に対して、秋の仔アユ降下対策と同様に左岸側の水門から集中的に放流し、速やかな遡上および降下を誘導するよう施設の運用を行っていただきたい。

2) アユの遡上調査について

利根大堰におけるアユの遡上調査は大変重要な調査であります。継続した調査の実施をお願いします。

3. 江戸川水閘門に関する要望

既存の水門からアユが遡上することは通常時において困難と推定されます。例年、水門下流で滞留している稚アユが違法に大量捕獲されています。

1) アユの遡上に配慮した施設の運用をお願いします。

閘門または水門をアユが速やかに遡上できるように操作することが出来ないでしょうか。稚アユの遡上時期は目前ですので、早急な対応をお願いします。

2) 国交省 HP “アユの遡上前線” に江戸川データの掲載をお願いします。

“アユの遡上前線” に江戸川のデータを掲載するようにはしていただけないでしょうか。

日本一のアユを取り戻す会の目的

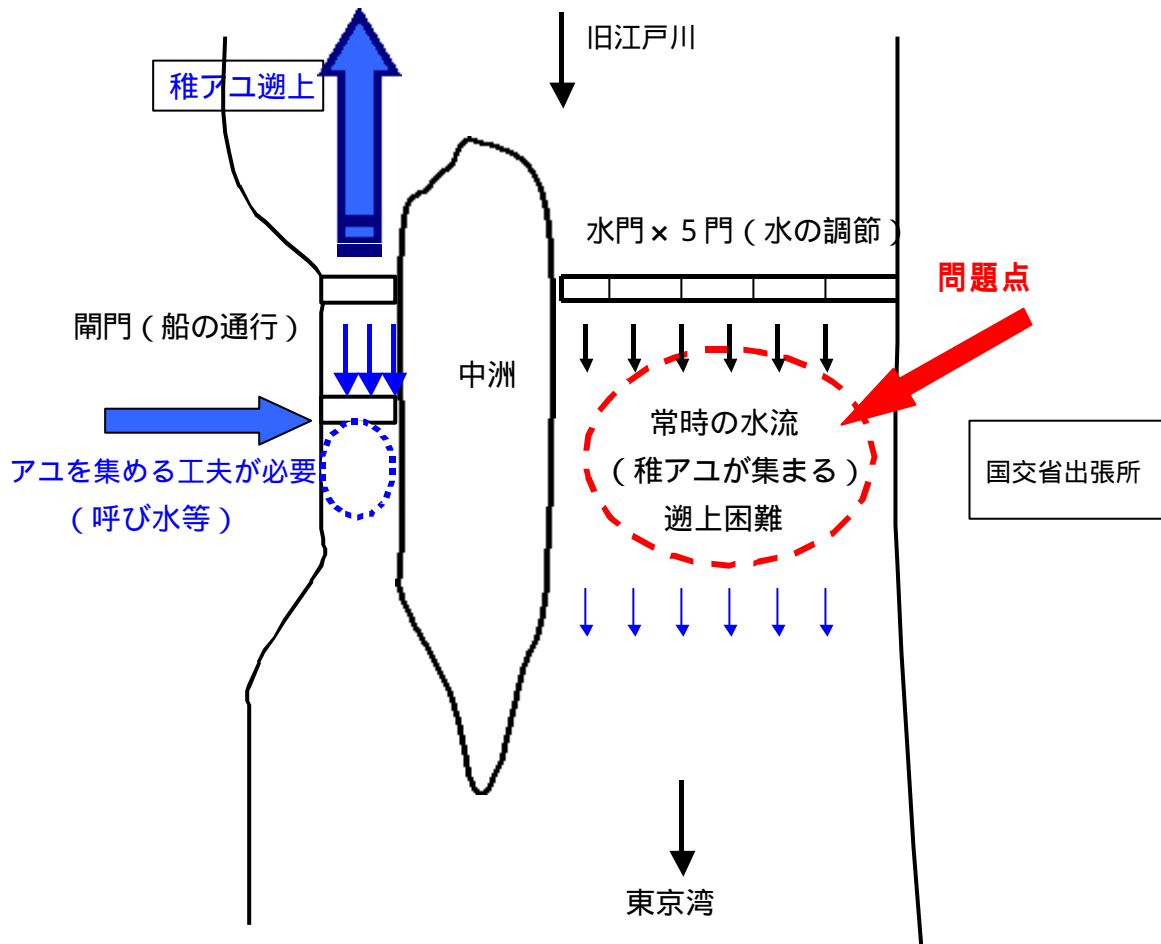
本会は、水源地「群馬県」に昔ながらの日本一のアユを取り戻すことを趣旨とし、自然を愛する釣り人が相互に意見の交換を行い、これを行政機関などに提唱し、より良い河川環境を後世に残すことを目的とする。<http://ayunihonichi.gunmamap.gr.jp/>

江戸川天然遡上アユを利根川上流へ

日本一のアユを取り戻す会

東京湾から江戸川へ遡上するアユは利根川中流の群馬県で成長し産卵します。江戸川水閘門はアユの遡上の障害となっているため改善が望まれます。この施設は舟運が現在でも出来るようになっていました。稚アユの遡上する時期に限定して、閘門をアユのために稼働していただけないでしょうか。カワウの食害防止や心無い不法釣り人対策にもなります。

江戸川水閘門平面イメージ図



(注) 水閘門改修時には、江戸川河口に相応しい魚道の設置をお願いします。

天然遡上アユを速やかに利根川上流へ

利根大堰平面イメージ図

(日本一のアユを取り戻す会)

